

# 無煙炭化器使用方法

周囲の生活環境に十分に配慮いただき、取扱説明書をよくご確認の上、使用してください。

なお、風が強い際にはご使用をお控えください。

## (1) せん定枝の用意

なるべく乾燥させた剪定枝を用意する。水分が残っていると燃えにくく燃焼時間も長くなり、煙の発生原因となり、生成される炭の量も減少する。

## (2) 炭化器の設置

火災の心配のない十分に広い場所、平らな土の上に設置し、草の上には設置しない。また底部の隙間から空気が入り込まないように、地面に押し付けるようにねじりながら設置する。

台座（No 焼き台）を使用する際は、土を半分程度入れ、その上に炭化器本体を置いて設置する。

## (3) 熾火

焚き付け用の段ボールと細いせん定枝を用意する。ガスバーナー等で着火し熾火を作り、炭化器内の温度を上げる。

## (4) せん定枝の初期投入

熾火ができあがってからせん定枝を少しずつ、空気が通りやすいように配置しながら投入する。一度に多くの剪定枝を投入すると火力が下がり、煙が生じる。



剪定枝は炭化器に対して10cmはみ出す程度の長さにすること！

## (5) 剪定枝の連続投入

火力が上がったら、炭化した剪定枝が器の7～8分目程度に達するまで連続的に枝を投入する。底部の方は酸欠、蒸し焼き状態になり炭化が進む。この状態になると煙はほとんど生じない。

## (6) 剪定枝の投入終了

炭化が進むと火力が下がり、炎が小さくなる。炎が出ている部分は未炭化である。適度にかき混ぜ、炎が消えたら炭化完了。

## (7) 消火

### 【水をかけて消火する場合】

煙の出ているうちは火種が残っているので、完全に消えるまで十分に散水する。完全消火後5分ほどおいて、容器が冷たくなっていることを確認する。炭を割って炭化状態（歩留まり）を確認する。

### 【火消し蓋を被せて消火する場合】

炭化器に火消し蓋を被せて消火する。蓋のまわりに土を被せて空気が入らないようにする。一昼夜置くと炭が完成する。